

広 告

感動と興奮をありがとう！

2人の石狩市出身者が挑んだ2006トリノ冬季オリンピック



3大会連続五輪代表という快挙をなしたフリースタイル・モーグルの附田雄剛選手。公式練習でエアを華麗に決める。(写真提供/読売新聞)



仲間やファンからは「カズ」と親しまれるスノーボード・ハーフパイプの國母和宏選手。五輪会場での練習風景。(写真提供/読売新聞)



2月6日、現地応援する2選手のお母様たちに応援旗を贈呈。附田選手の母校・花川北中学校、國母選手の母校・花川中学校から後輩たちも駆けつけ、激励メッセージのつづられた色紙をそれぞれのお母様に手渡しました。



それぞれの母校には応援メッセージも！(左から花川北中学校と花川中学校で)



2月12日、新港南にある場外車券売り場「サテライト石狩」には國母選手を応援しようと約100人が集合。

同級生らも応援。



1月20日午前、2人の代表決定発表を受けて、市では本庁舎壁に幅1・8m、長さ18mの垂れ幕を掲げ、両選手の健闘を祈りました。

2月10日から26日まで、イタリア・トリノで開催された冬季オリンピック。日本の五輪選手は総勢112人で、その中に石狩市出身の2人の若者の姿もありました。フリースタイル・モーグルの附田雄剛選手(29)とスノーボード・ハーフパイプの國母和宏選手(17)です。附田選手はフランス・ティニユで行われたFISW杯2位が評価されて長野五輪から3大会連続代表に。また、現役高校生で國母選手は、スイス・サースフェーで行われたFISW杯での優勝が五輪への切符獲得につながりました。

日本との時差がマイナス8時間あるトリノだけに、大会が始まると観戦はいずれも夜。それでも2月12日、初出場となった國母選手の試合には、実家のある花川ニュータウン町内会が住民たちに呼び掛けて、17時過ぎから場外車券売り場「サテライト石狩」に集まり、200インチの画面の前で応援しました。そこには中学時代の同級生たちの姿もあり、いよいよ國母選手が登場というときには緊張のあまり、座っていられずに遠く離れて見守るという場面も。残念ながら今回は両選手ともメダル獲得には至りませんでした。それでも私たち市民に興奮と感動を与えてくれたのは事実。挑戦することの素晴らしさにあらためて気付かせてくれた2人の勇姿でした。